

2021年度上半期報告 説明資料

相互会社としての使命	P1	保険料等収入、金融機関窓販の状況	P8
新型コロナウイルス感染症への対応	P2	資産運用の状況(富国生命単体)	P9
100周年に向けて	P3	基礎利益、経常利益・中間純剰余の状況	P10
経営の差別化の歴史	P4	健全性の状況	P11
2021年度上半期報告のポイント	P5	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント	P12
保険業績の状況(2社合算)	P6 ~ P7	【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P13

富国生命保険相互会社

2021年11月24日

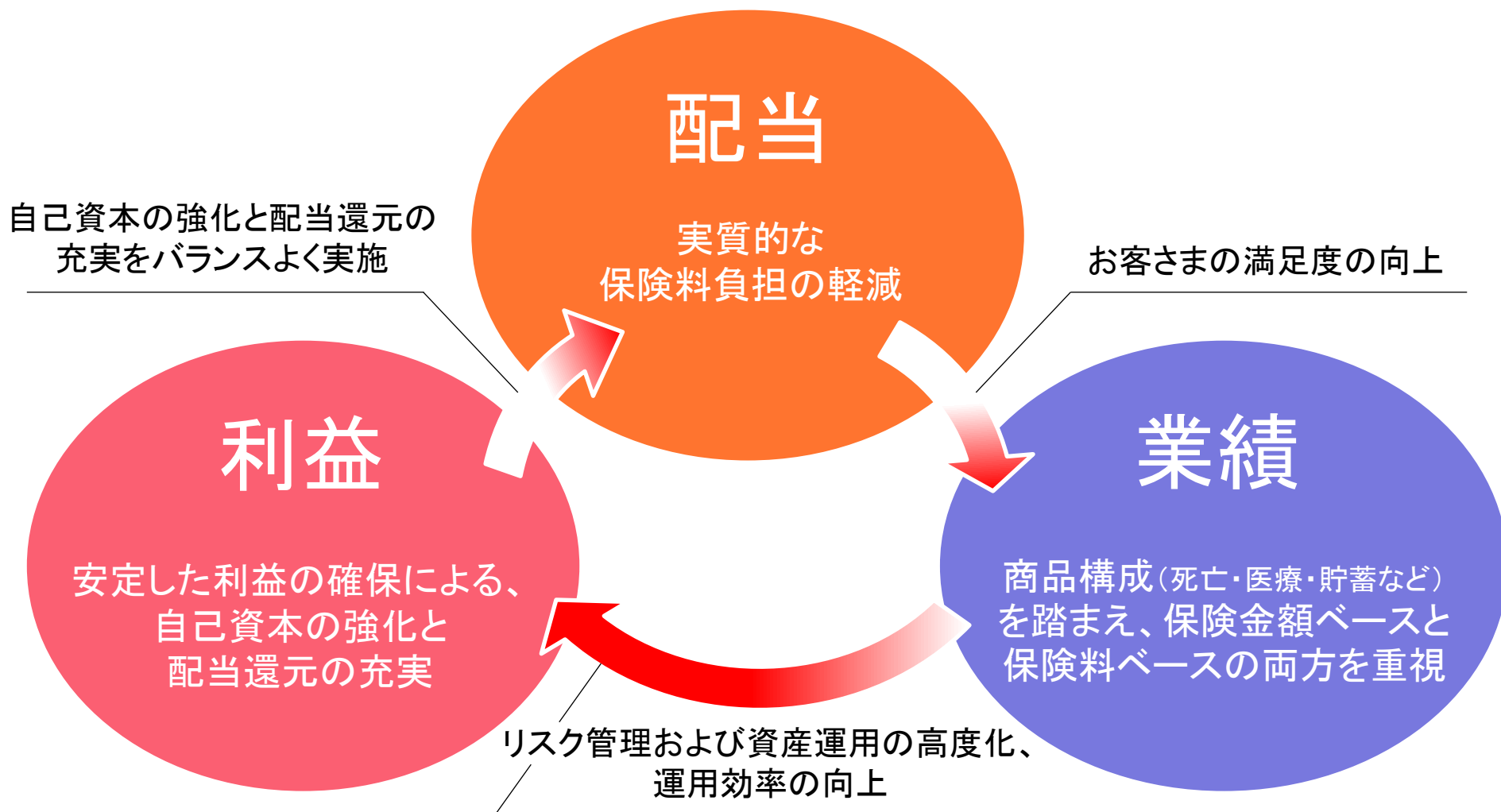


すてきな未来応援します

フコク生命

相互会社としての使命

安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。



新型コロナウイルス感染症への対応

お客さまへの取組み

- ◆ 新型コロナウイルス感染症を災害保険金等の支払対象として取扱い
- ◆ 医療機関の事情等により入院できず、臨時施設等で療養された場合でも入院給付金等をお支払い
- ◆ 保険料払込猶予期間の延長、各種手続きの簡易取扱等の特別措置の実施
- ◆ 販売中の医療保険において、新型コロナウイルス感染症等に対する入院見舞給付金が従来の2倍となる「感染症サポートプラス」の取扱いを2020年12月より開始。支払の対象となる入院を2022年1月31日までの期間に限定することにより、保険料を変えずに既契約のお客さまに対しても保障を拡大
- ◆ オンライン面談や各種資料の電子的送付システム等を導入し、お客さまへよりパーソナルな情報を提供

役職員の取組み

- ◆ 在宅勤務や時差出勤を実施するとともに、マスク着用等の基本的な感染防止策を徹底
- ◆ 内幸町・千葉ニュータウン本社ならびに近畿圏において新型コロナウイルス感染症のワクチンの職域接種を実施

保険金・給付金のお支払い状況

【保険金のお支払い】

(単位:件、百万円)

2021年9月末まで累計		うち2021年度上半期	
件数	金額	件数	金額
143	809	86	453

【給付金のお支払い】

(単位:件、百万円)

2021年9月末まで累計		うち2021年度上半期	
件数	金額	件数	金額
9,987	1,549	6,932	1,129

※富国生命、フコクしんらい生命の合算

100周年に向けて

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
共感・つながり・支えあいをベースとした
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、富国生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあう
真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意



すまいる・ぎやらりー



おやさいクレヨン

創業

- 『保険事業の進むべき方向は、「ご契約者本位」しかない』という想いのもと相互会社として創業
- 創業以来、相互会社形態を貫く唯一の会社

1923年
創業

2018年
95周年

2019年

2020年

2021年

2023年
100周年

YouTubeチャンネル
「THE MUTUAL SQUARE」開設

100周年

- 「THE MUTUAL」の体現
- 富国生命に関わるすべての人と共感しあえる会社となる

100周年プロジェクトスタート

- 富国生命が考えていることや想いを、100周年プロジェクトのスタートアップとして宣言
- 100周年までの5年間で、次代の相互扶助を模索しながら発信していく

分科会活動
「NEXT100」スタート

「THE MUTUAL Art for children」の取組み

- 「すまいる・ぎやらりー」(全国の特別支援学校生徒の美術作品を内幸町本社ビル地下2階に展示する企画)の作品をデザインとして活用し、子どもたちと社会がつながるお手伝い
- おやさいクレヨンを製作し、保育園等に寄贈

経営の差別化の歴史

保険販売・商品戦略

■ 「お客さま基点」に向けた取組みを開始【2005年度】

■ 「お客さま基点」を価値観に位置付ける【2008年度】

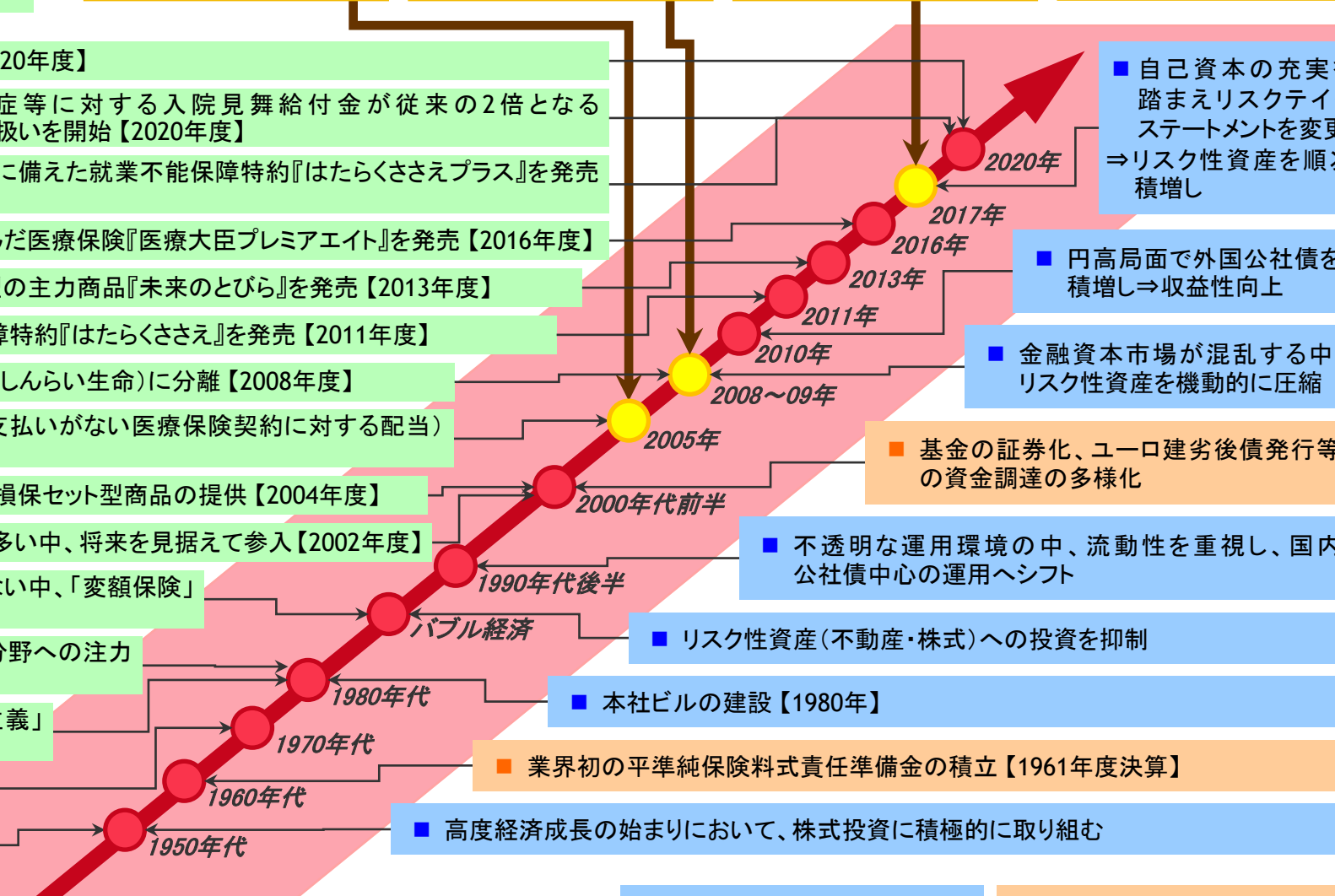
■ 『「お客さま基点」の業務運営方針』公表【2017年度】

■ 徹底した差別化でお客さまから最も評価される会社へ

- 個人保険9年連続の増配【2020年度】
- 新型コロナウイルス感染症等に対する入院見舞給付金が従来の2倍となる『感染症サポートプラス』の取扱いを開始【2020年度】
- 短期・長期の就業不能リスクに備えた就業不能保障特約『はたらくささえプラス』を発売【2020年度】
- 業界初の保障内容を盛り込んだ医療保険『医療大臣プレミアエイト』を発売【2016年度】
- 生保業界初となる特約組立型の主力商品『未来のとびら』を発売【2013年度】
- 他社に先駆けて就業不能保障特約『はたらくささえ』を発売【2011年度】
- 窓販チャネルを子会社（フコクしんらい生命）に分離【2008年度】
- 健康配当（入院給付金のお支払いがない医療保険契約に対する配当）の開始【2005年度】
- セコム損保との提携による生損保セット型商品の提供【2004年度】
- 金融機関窓販への反対論が多い中、将来を見据えて参入【2002年度】
- 自己責任原則が浸透していない中、「変額保険」は販売せずの方針
- 医療保険の提供による第三分野への注力【1983年度】
- 他社に先駆けて「保有純増主義」を打ち出す【1981年度】
- 継続率改善への取り組み
- 効率的な職域営業の取り組みを開始

■ 経営理念：ご契約者の利益擁護

■ 『最大たらんよりは最優たれ』



■ 自己資本の充実を踏まえリスクテイクステートメントを変更⇒リスク性資産を順次積増し

■ 円高局面で外国公社債を積増し⇒収益性向上

■ 金融資本市場が混乱する中、リスク性資産を機動的に圧縮

■ 基金の証券化、ユーロ建劣後債発行等の資金調達が多様化

■ 不透明な運用環境の中、流動性を重視し、国内公社債中心の運用ヘシフト

■ リスク性資産（不動産・株式）への投資を抑制

■ 本社ビルの建設【1980年】

■ 業界初の平準純保険料式責任準備金の積立【1961年度決算】

■ 高度経済成長の始まりにおいて、株式投資に積極的に取り組む

資産運用戦略

財務戦略

2021年度上半期報告のポイント

1 保険業績はコロナ禍以前を上回る水準に回復

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は、前年同期比30.5%増加、新契約年換算保険料は同49.9%増加。昨年度は第1四半期に新型コロナウイルス感染拡大を受けて営業活動を自粛したが、今年度はコロナ禍による制約があったものの、通期で営業活動を行ったことが主な要因。コロナ禍以前(2019年度上半期)を上回る水準に回復
- ◆ 2社合算の解約・失効は、去年の反動があったものの、コロナ禍以前と比べ改善

2 第三分野の保有契約年換算保険料は引き続き増加

- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料はほぼ横ばい、第三分野については前年度末比0.3%増加と2003年度の開示以来プラス伸展を継続

3 保険料等収入は増加

- ◆ 保険料等収入は2社ともに増加し、合算では前年同期比13.2%増加

4 基礎利益は増加

- ◆ 2社合算の基礎利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により保険金・給付金の支払額が増加したことで保険関係損益が減少したものの、利差益が大幅に増加したことにより前年同期比18.6%増加

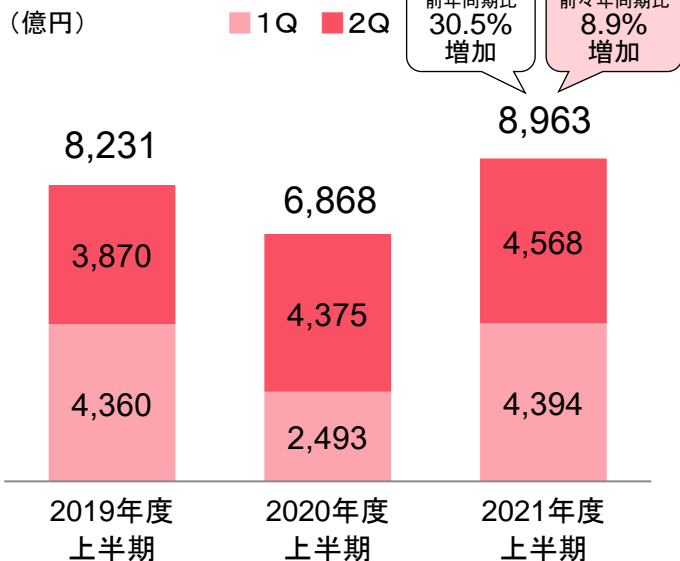
5 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は1,279.7%と前年度末比24.2ポイント低下したものの、引き続き高い水準を維持

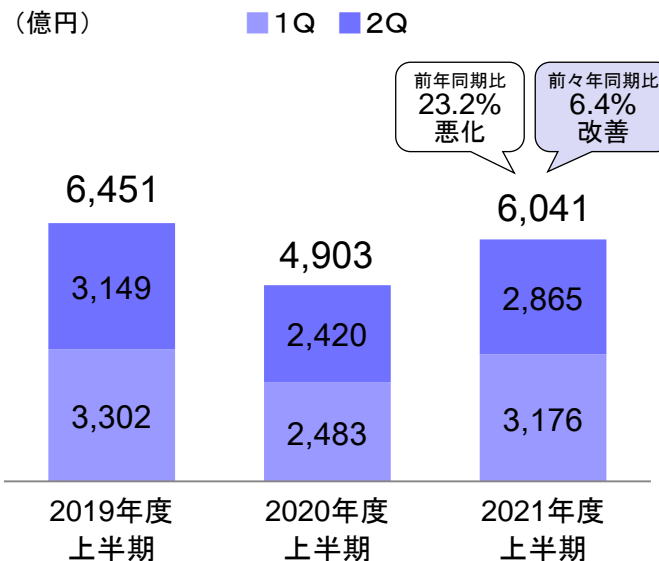
保険業績の状況(2社合算) 新契約・解約失効

※個人保険と個人年金保険の合計

新契約高

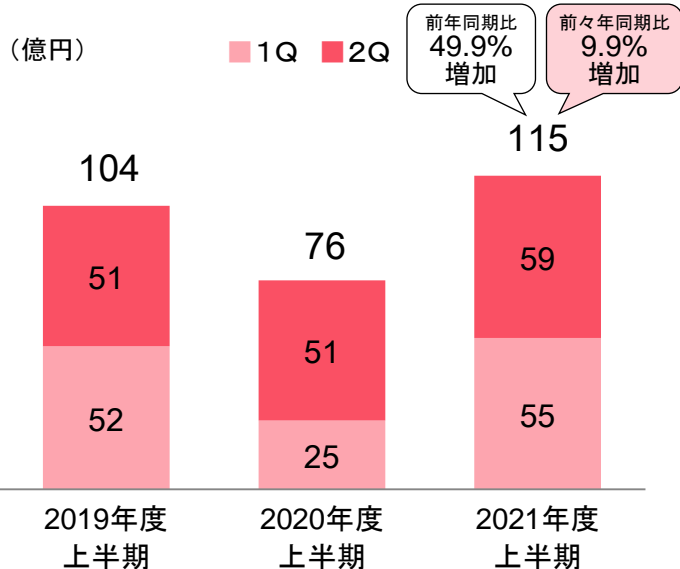


解約失効高

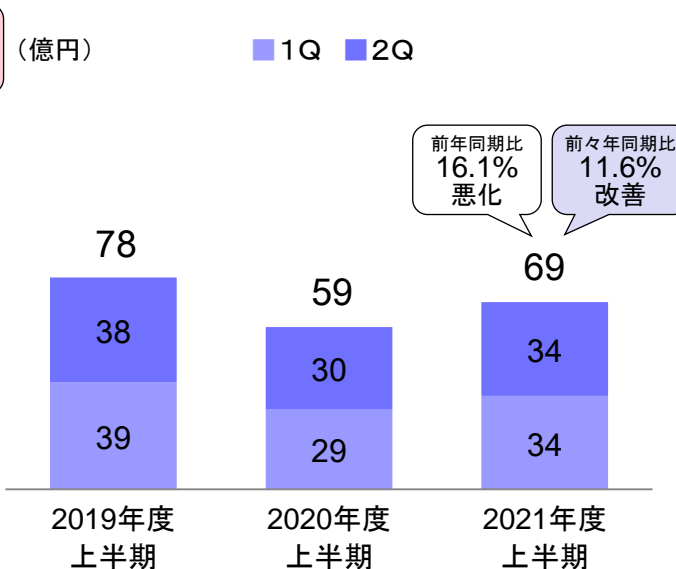


- ◆ 新契約高は、前年同期比30.5%増加
- ◆ 昨年度は第1四半期に営業活動を自粛したが、当上半期はコロナ禍による制約があったものの、通期で営業活動を行ったことが主な要因
- ◆ コロナ禍以前(2019年度上半期)を上回る水準に回復
- ◆ 解約失効高は、前年同期比23.2%増加、昨年の反動があったものの、コロナ禍以前と比べ改善

新契約年換算保険料



解約失効年換算保険料

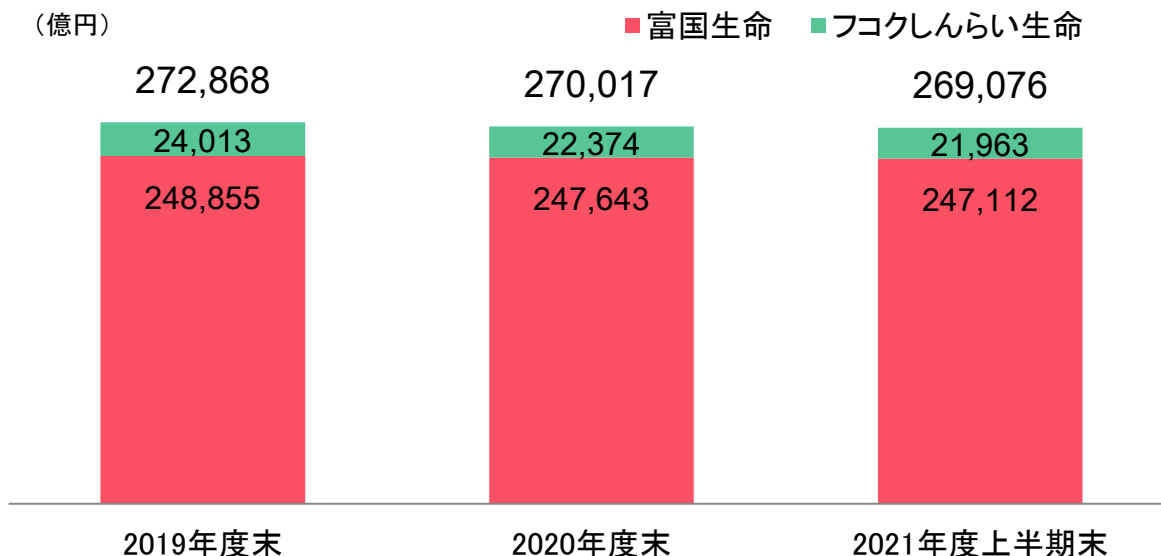


- ◆ 新契約年換算保険料は、前年同期比49.9%増加
- ◆ 解約失効年換算保険料は、同16.1%悪化

保険業績の状況(2社合算) 保有契約

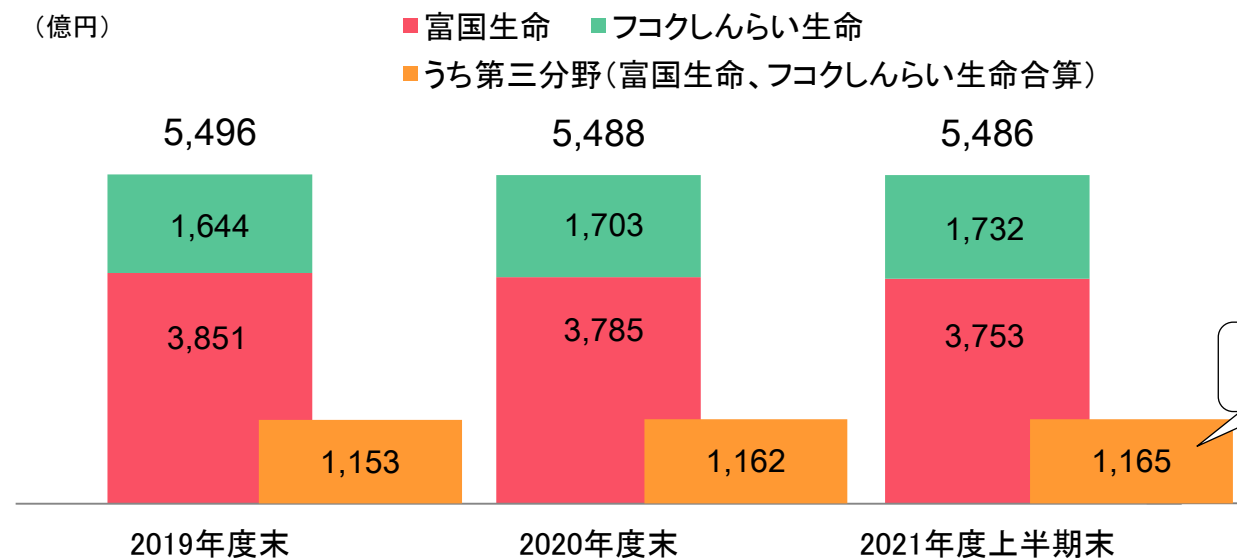
※個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高



- ◆ 保有契約高は、前年度末比0.3%減少
- ◆ 減少幅は年々縮小しており、引き続き反転増加に向けて取り組む

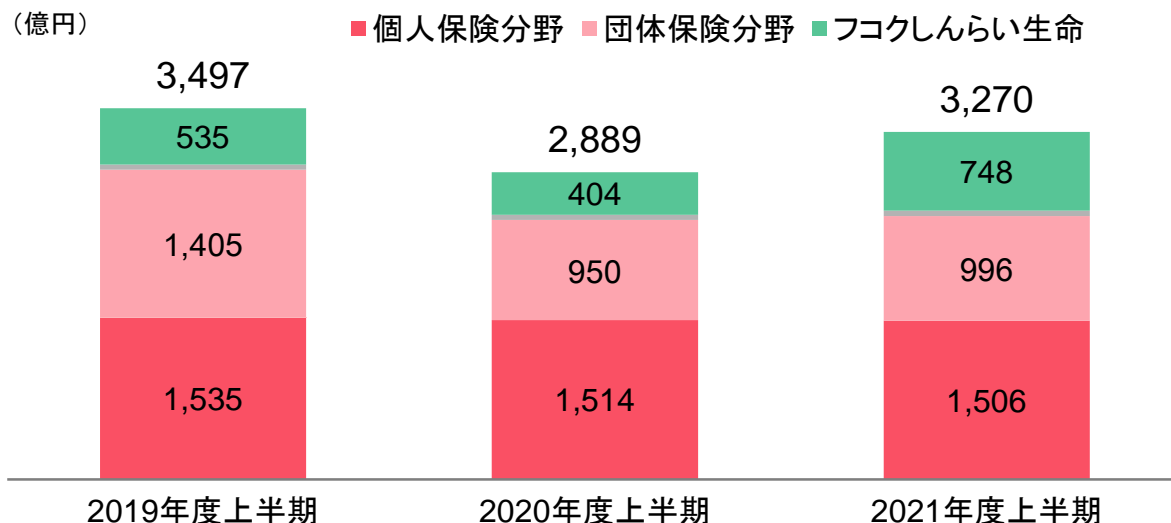
保有契約年換算保険料



- ◆ 保有契約年換算保険料はほぼ横ばい、うちフコクしんらい生命は前年度末比1.7%増加
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.3%増加と2003年度の開示以来プラス伸展を継続

保険料等収入、金融機関窓販の状況

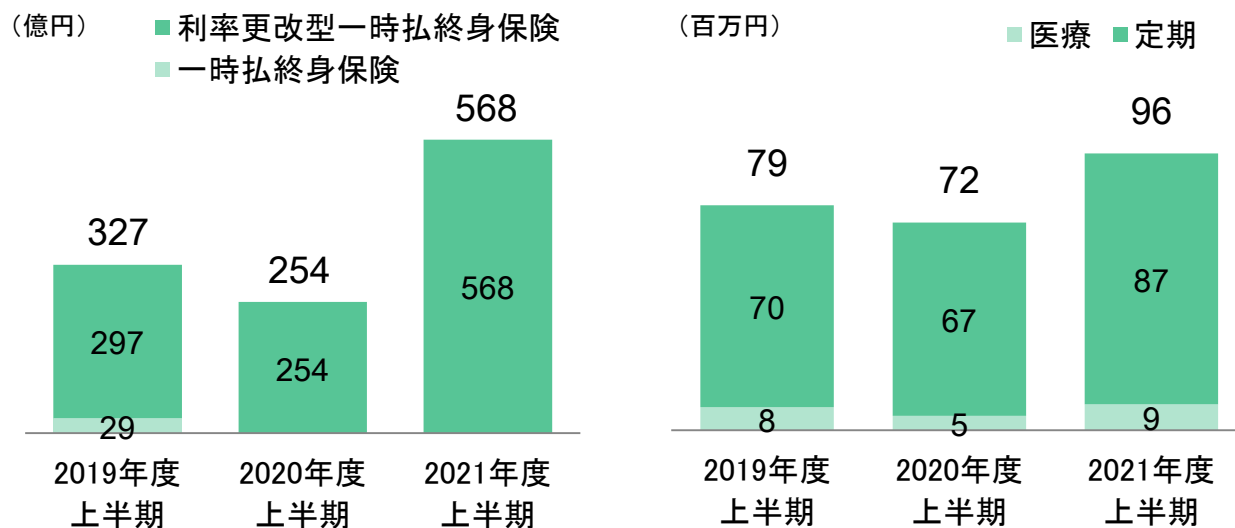
保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 保険料等収入は、前年同期比13.2%増加
- ◆ フコクしんらい生命において、利率更改型一時払終身保険の販売が好調だったことが主な要因

金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

【貯蓄性一時払商品の販売実績(収入保険料)】 【保障性商品の販売実績(年換算保険料)】

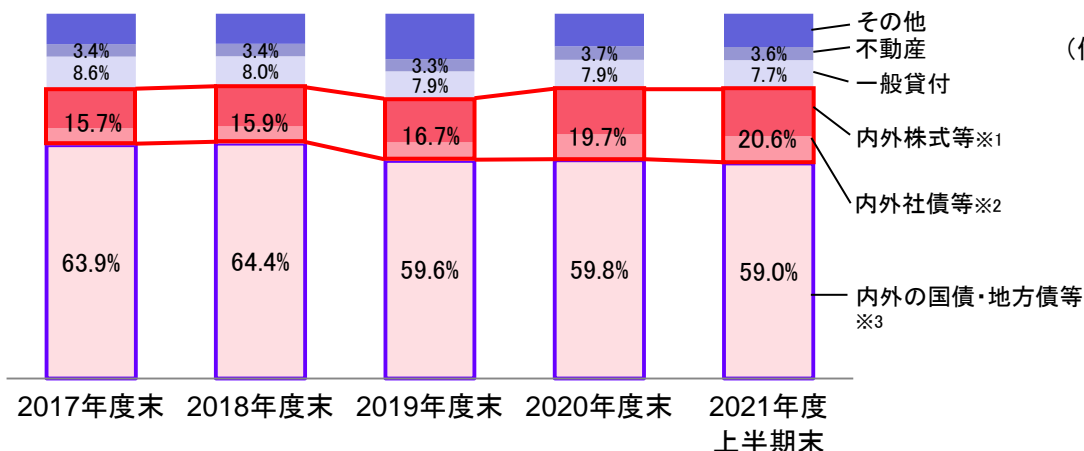


- ◆ 利率更改型一時払終身保険の販売が昨年8月以降好調に推移し、前年同期比で大幅に増加
- ◆ 保障性商品はコロナ禍以前を上回る水準に伸展

資産運用の状況(富国生命単体)

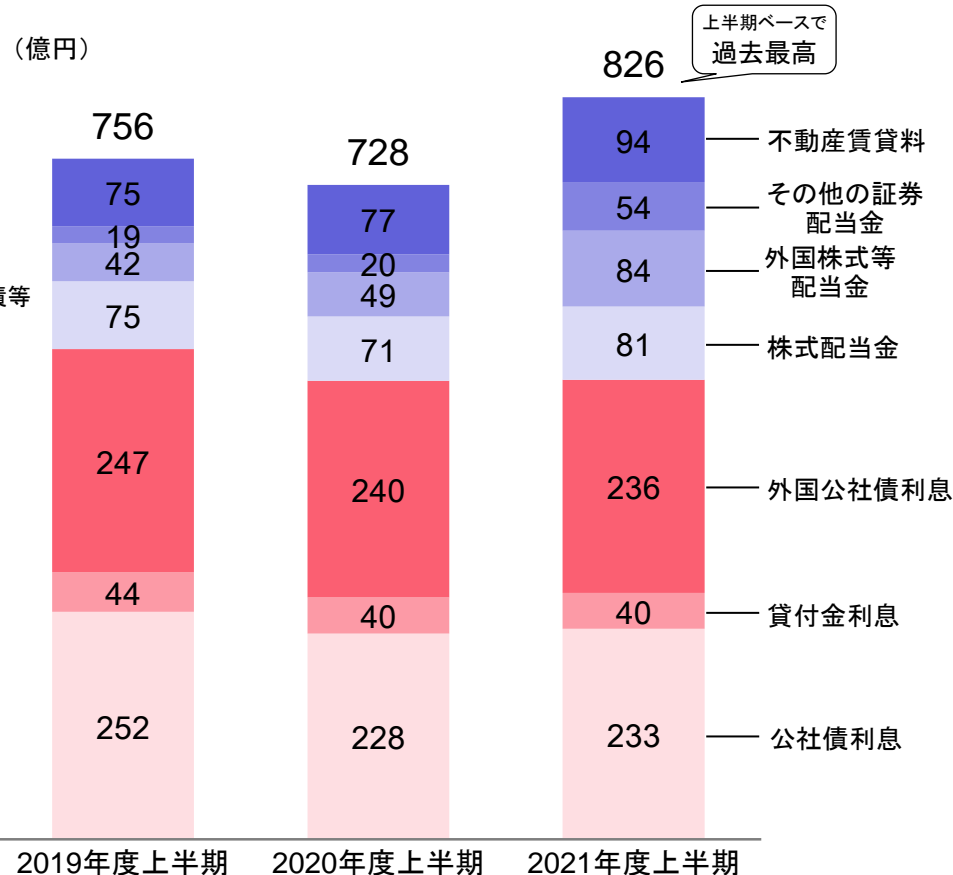
- ◆ 2017年度より、自己資本の充実度状況とリスク・リターン効率を踏まえ、資産運用リスクを取りに行く戦略に変更。超低金利環境が長期化する中でも安定した収益性を維持するため、内外の株式や社債を積み増してきた
- ◆ 2021年度上半期は、外国株式や外貨建社債を中心に、リスク・リターン効率に優れた投融資案件を選別して実行。株式の価格変動リスクおよび外貨建資産の為替リスクについては、適切なコントロールに努めた
- ◆ 利息及び配当金等収入は、こうした取組みが奏功し、国内株式の配当金が増加したことや、株価上昇を受け内外の投資信託の配当金が増加したことなどから、826億円と上半期ベースで過去最高

一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)

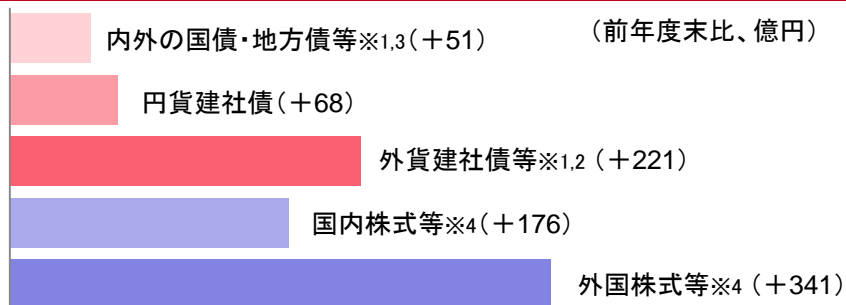


※1 投資信託を含む(ただし投資対象が外国債券であるものを除く) ※2 外国社債を投資対象とする投資信託を含む
 ※3 国債、地方債に加え、政府機関債、国際機関債等、及び、外国国債・地方債等を投資対象とする投資信託を含む

利息及び配当金等収入※



主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

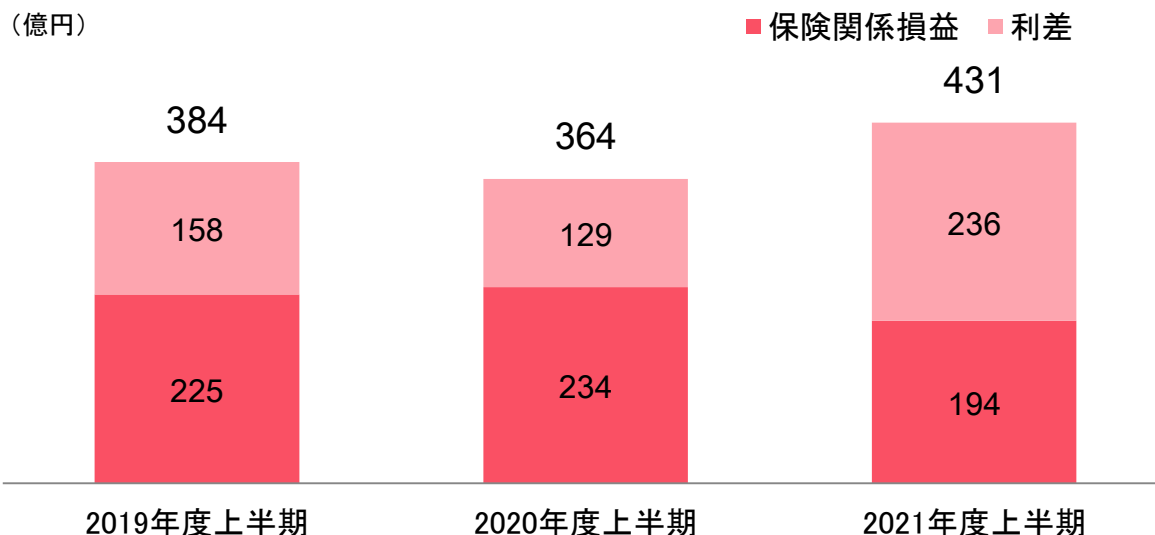


※1 損益計算書に計上した外貨建公社債の評価損益・為替換算損益を控除したもの ※2 外国社債を投資対象とする投資信託を含む
 ※3 国債、地方債に加え、政府機関債、国際機関債等、及び、外国国債・地方債等を投資対象とする投資信託を含む
 ※4 投資信託を含む(ただし投資対象が外国債券であるものを除く)

※売買目的有価証券運用益(損)に含まれる利息及び配当金等収入を含む
 ※2021年度上半期は、不動産の収益認識基準の変更の影響(15億円)を含む

基礎利益、経常利益・中間純剰余の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 基礎利益は、前年同期比18.6%増加
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、保険金・給付金の支払額が増加したことで保険関係損益が減少
- ◆ 利息及び配当金等収入の増加が寄与し、利差益が大幅に増加

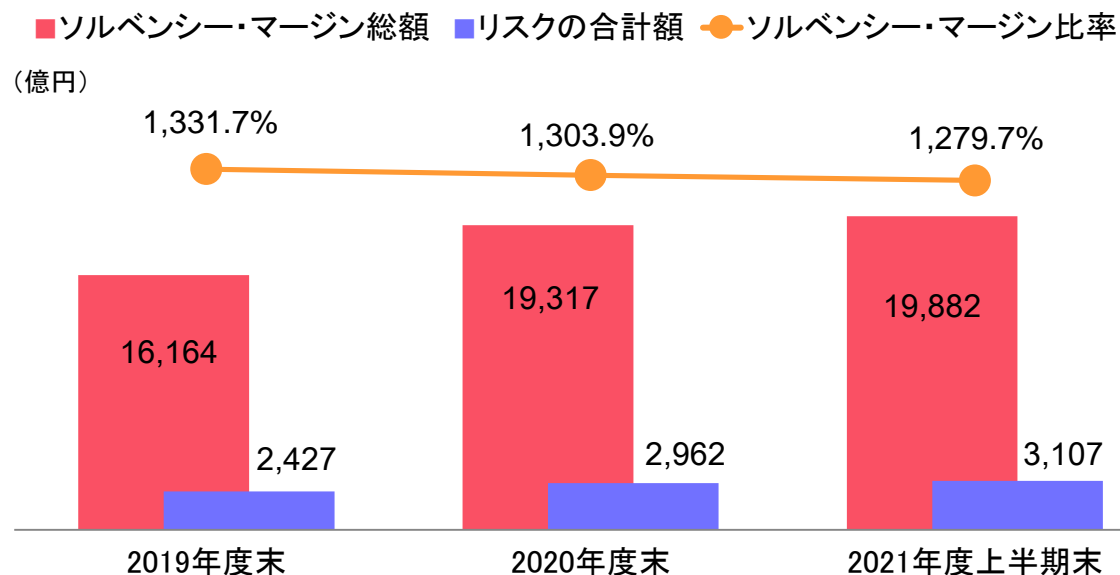
経常利益・中間純剰余(富国生命単体)

	2019年度上半期	2020年度上半期	2021年度上半期
基礎利益	386	370	440
キャピタル損益	52	△4	38
臨時損益	△45	△34	△39
うち危険準備金繰入額	3	1	4
うち追加責任準備金繰入額	38	32	34
経常利益	392	331	440
特別損益	△18	△26	△21
うち価格変動準備金繰入額	17	18	18
中間純剰余	317	265	346

- ◆ 経常利益は、基礎利益が増加したことにより、前年同期比32.9%増加の440億円
- ◆ 中間純剰余は、同30.3%増加の346億円

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率



- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比24.2ポイント低下の1,279.7%
- ◆ 内外株式等の積増しなどによるリスクの合計額の増加が主因

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(富国生命単体)

	2019年度末	2020年度末	2021年度上半期末 (速報値)
ESR	212.5%	222.6%	226.7%

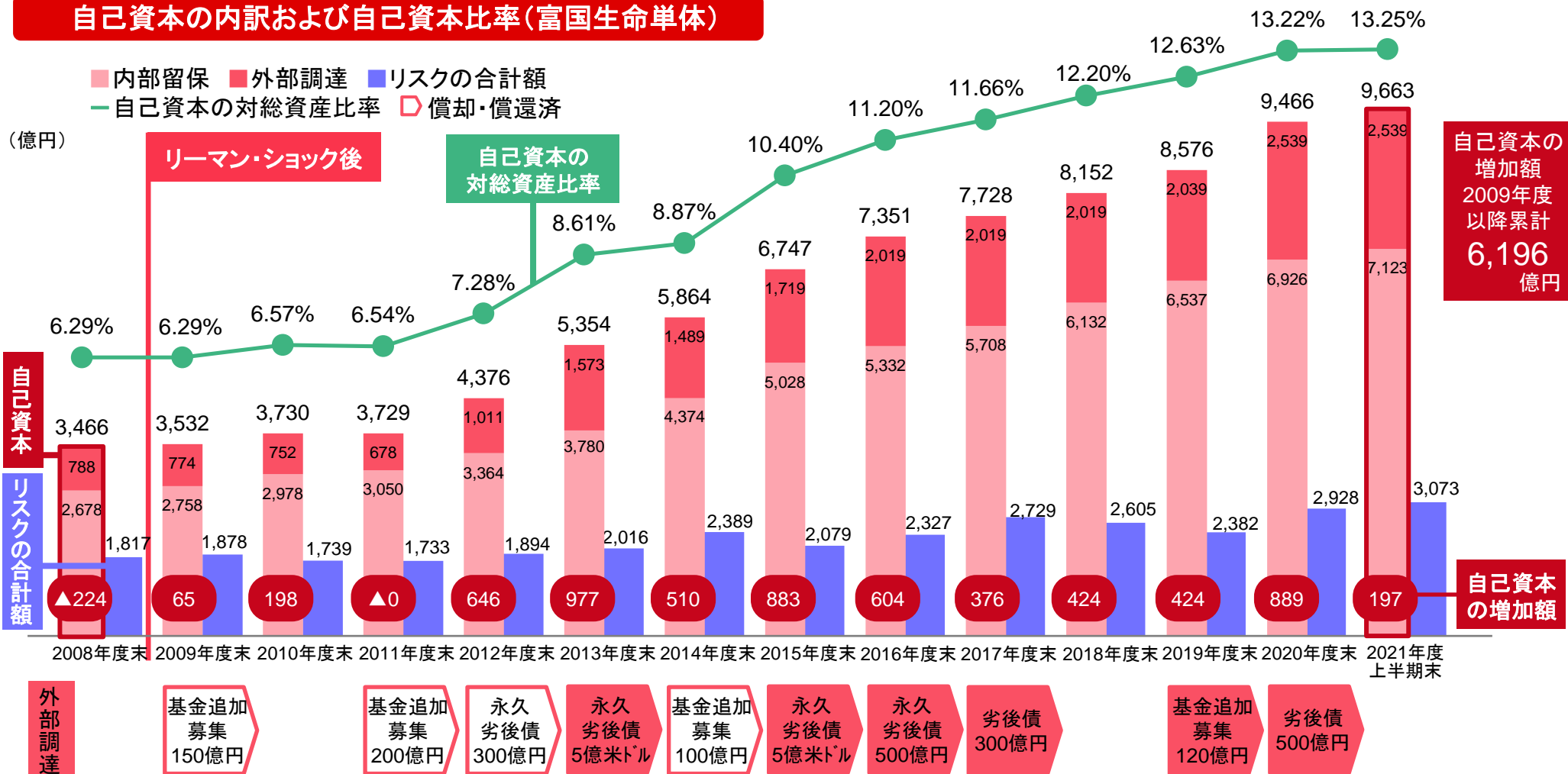
- ◆ 富国生命における経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)は、前年度末比4.1ポイント上昇の226.7%

(注) ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている。

オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント

- ◆ 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- ◆ 2021年度上半期においては、内部留保により197億円増加
- ◆ 統合的リスク管理(ERM)を着実に進め、保険金等の確実な支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

	2019年度上半期	2020年度上半期		2021年度上半期	
				増減率/pt	増減率/pt
新契約高 ^(※)	8,231億円	6,868億円	▲ 16.6%	8,963億円	30.5%
富国生命	7,619億円	6,438億円	▲ 15.5%	8,151億円	26.6%
フコクしんらい生命	612億円	430億円	▲ 29.7%	811億円	88.8%
新契約年換算保険料 ^(※)	104億円	76億円	▲ 26.7%	115億円	49.9%
富国生命	72億円	53億円	▲ 25.8%	66億円	23.1%
フコクしんらい生命	32億円	22億円	▲ 28.7%	48億円	2.13倍
保険料等収入	3,497億円	2,889億円	▲ 17.4%	3,270億円	13.2%
富国生命	2,961億円	2,484億円	▲ 16.1%	2,521億円	1.5%
フコクしんらい生命	535億円	404億円	▲ 24.4%	748億円	84.9%
基礎利益	384億円	364億円	▲ 5.3%	431億円	18.6%
富国生命	386億円	370億円	▲ 3.9%	440億円	18.8%
保険関係損益	241億円	253億円	4.9%	215億円	▲ 15.1%
利差	144億円	117億円	▲ 18.8%	225億円	91.9%
フコクしんらい生命	▲ 1億円	▲ 6億円	—	▲ 9億円	—
	2019年度末	2020年度末		2021年度上半期末	
			増減率/pt		増減率/pt
保有契約高 ^(※)	27兆2,868億円	27兆17億円	▲ 1.0%	26兆9,076億円	▲ 0.3%
富国生命	24兆8,855億円	24兆7,643億円	▲ 0.5%	24兆7,112億円	▲ 0.2%
フコクしんらい生命	2兆4,013億円	2兆2,374億円	▲ 6.8%	2兆1,963億円	▲ 1.8%
保有契約年換算保険料 ^(※)	5,496億円	5,488億円	▲ 0.1%	5,486億円	▲ 0.0%
富国生命	3,851億円	3,785億円	▲ 1.7%	3,753億円	▲ 0.8%
フコクしんらい生命	1,644億円	1,703億円	3.5%	1,732億円	1.7%
連結ソルベンシー・マージン比率	1,331.7%	1,303.9%	▲ 27.8pt	1,279.7%	▲ 24.2pt
富国生命	1,290.8%	1,261.6%	▲ 29.2pt	1,237.5%	▲ 24.1pt
フコクしんらい生命	968.1%	1,084.9%	+ 116.8pt	1,135.8%	+ 50.9pt

※ 個人保険と個人年金保険の合計